

事業所における自己評価統括表

○分析結果

	事業所の強みだと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析されたうえで、放課後等デイサービス計画が作成されている。	子どもの日々の様子や支援記録、保護者からの聞き取り内容をもとに、多角的な視点でニーズや課題を整理し、個々の発達段階や特性に応じた支援計画の作成に努めています。職員間でも情報共有を行い、支援内容に統一性を持たせながら、子ども本人や保護者の思いを反映した計画づくりを意識しています。	定期的なモニタリングや振り返りをより丁寧に行い、子どもの成長や変化に応じて柔軟に支援計画を見直していきます。また、保護者との面談機会を充実させ、家庭や学校での様子も踏まえながら、より実態に即した支援につなげていきます。
2	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができています。	送迎時の対話や連絡帳等を通して、事業所での様子や成長した点を丁寧に伝えるよう心掛けています。また、家庭での様子についても積極的に共有していただき、保護者と一緒に子どもの課題や支援方法を考えられる関係づくりを大切にしています。	保護者が相談しやすい環境づくりをさらに進めるとともに、必要に応じて面談や情報共有の機会を増やし、よりきめ細かな連携を図っていきます。また、職員間でも情報共有を徹底し、一貫した支援につなげていきます。
3	子どもは通所を楽しみにしている。	子ども一人ひとりの興味や得意なことを取り入れた活動を実施し、「できた」「楽しい」と感じられる経験を積み重ねられるよう支援しています。また、安心して過ごせる環境づくりや、職員との信頼関係を大切にし、通所が楽しみになるよう努めています。	子どもの意見や希望を活動内容により反映できるよう工夫し、主体的に参加できる機会を増やしていきます。また、新しい体験や季節行事なども取り入れながら、継続して楽しく通える環境づくりを行っていきます。

	事業所の弱みだと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある。	感染症対策や安全面への配慮、活動時間の調整等の理由から、地域施設や他児童との交流機会を十分に設けることが難しい状況がありました。また、子どもの特性や個々の支援ニーズに応じた対応を優先する中で、外部との交流活動の計画・実施まで十分に組み合わせていませんでした。	地域の児童館や関係機関との連携を少しずつ進め、無理のない範囲で交流機会を増やしていきます。また、子どもたちが安心して参加できるよう、事前準備や環境調整を行いながら、地域とのつながりを広げられる活動を検討していきます。
2	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。	各種マニュアルは整備しているものの、保護者への説明や周知の機会が十分ではなく、内容が伝わりにくい部分があったと考えています。また、事業所内の掲示のみになりやすく、実際の対応方法について具体的に共有する機会が少なかったです。	保護者会やお便り等を活用し、緊急時の対応方法やマニュアルの内容について、分かりやすく継続的に周知していきます。また、定期的な見直しを行い、必要に応じて訓練の実施状況等も共有しながら、安心して利用できる体制づくりにつなげていきます。
3	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信している。	日々の支援業務を優先する中で、情報発信の頻度や内容にばらつきが生じていました。また、会報やホームページの更新が十分に行えず、活動内容や自己評価結果などを継続的に発信する体制が整いきれていませんでした。	定期的な情報発信の時期や担当を明確にし、活動の様子や行事予定、事業所の取組について分かりやすく伝えていきます。また、保護者が必要な情報を確認しやすいよう、配信方法や内容の工夫を行い、開かれた事業所運営につなげていきます。